

令和4年度 第 2 回 高砂市総合政策審議会 第 1 部会

議事録

開催日時	令和4年 11 月 15日(火)10:00～12:00					
開催場所	高砂市文化保健センター					
会長 副会長	山口 隆英 部会長					
委員 (名簿順) 出席 9人	出席	松本 克英委員	出席	見上 恵美子委員	出席	塩崎 篤史委員
	出席	濱中 美佐子委員	出席	春下 充代委員	欠席	藤本 翼委員
	出席	東野アドリアナ委員	出席	山口 隆英委員	欠席	大西 正起委員
	欠席	福島 孝一委員	欠席	松下 尚平委員	出席	江畑 達也委員
	出席	坂本 竜之介委員	欠席	小川 佳宏委員		
議事	協議事項					
	(1)第5次高砂市総合計画実施計画(行政経営プラン)令和4年度中間評価について ・基本目標2 2-1から2-5の各政策の評価について ・基本目標4 4-1から4-4の各政策の評価について (2)その他					
資 料	事前配付資料					
	次第 高砂市総合政策審議会の運営に関する規程 委員名簿 第 5 次高砂市総合計画実施計画令和4年度(政策評価表) 事業(取組)まとめを表紙にした事業評価表					

議事の経過
開 会 <本日の資料の確認> <本日の進行について説明> <事務局紹介> <会議の成立> 部会長 挨拶 本日は総合政策審議会の第 1 部会として、高砂市総合計画の行政経営プランの中間評価について、前回色々とした意見も含めて、議論を深めていければと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

協議事項 1 第5次高砂市総合計画実施計画令和4年度中間評価について

(部会長)

前回 5 月の審議会で意見がございました、JR 曾根駅、山陽電鉄高砂駅などの駅周辺整備事業の取組の説明に不足している部分がございましたので、改めて説明を事務局からお願いします。

(都市創造部長)

前回 5 月の審議会で意見がございました、駅周辺駅整備の件について、ご説明させていただきます。

まず、高砂市では、高砂市駅周辺整備プログラムというものを策定しようとしているところです。これは、市内 6 駅(JR2駅、山陽電鉄 4 駅)全体の整備方針を定めるものです。市の全体構想としては、各駅について、総合計画、又は、都市計画マスタープランで記載されており、現在は、駅利用者の利便性の向上や新たなにぎわいの創出、都市の活性化を目指しているところです。各駅の課題・問題点を抽出しており、それを解決するために、必要な整備を計画的、効率的に行うための作業を進めているところです。この中では、長期的な駅周辺のまちづくりについて計画しています。駅前広場だけでなく、そこにアクセスする道路整備や近隣市街地整備を行うことで、人口の流入を図りたいと考えています。

次に、各駅の状況について、JR 曾根駅の件から説明します。今、JR 曾根駅は南口整備の工法について選定を行っているところです。具体的には、線路を跨ぐ自由通路の計画、設計を行っており、基本計画を定めて JR 西日本等と協議しているところです。大まかなスケジュールとしては、令和5年度に基本設計を行い、詳細設計を行ったのち、早ければ令和7年度に事業着手、令和9年度末に供用開始を考えています。駅周辺整備については、地元の方と定期的に JR 曾根駅周辺整備推進委員の意見交換会を開催しています。ここでは、阿弥陀、北浜、曾根、中筋の4地区から24自治会の会長にご出席いただいています。その中で、現状の報告や今後の取組について説明しているところです。また、JR 西日本との協議も進んでおり、来年度早々には意見交換会からまちづくり協議会にステップアップさせ、事業を進めたいと考えています。JR 西日本との協議については、同社も新型コロナウイルスの影響を受け、経営的に厳しい中、様々な意見をいただいています。しかし、JR 西日本でも、駅周辺の自治体や地域とともに駅周辺整備に取り組む、地域共生室を新たに設置しており、協議運営を精力的に行っていると考えています。

次に、山陽電鉄高砂駅、荒井駅を高架化する連続立体交差の件です。高砂駅については、駅南側地区について、すでにまちづくり協議会が立ち上がっており、基本計画を策定しています。それに基づき、現在、地権者の方への説明回答を実施しています。新型コロナウイルスの影響もあり、若干遅れがありますが、進捗しています。荒井駅については、先日まちづくり協議会が発足し、その中で、今後、精力的に地元の皆さんと共に計画を立てていきたいと考えています。

JR 宝殿駅について、駅南側は加古川市域ですが、国道2号線につながる県道の拡幅を目指し、加古川市や県と協議を進めているところです。

そして、山陽電鉄の曾根駅、伊保駅については、地域に根差した駅であることから、駅整備プ

プログラムを策定するにあたり、利用者のアンケートをしているところです。そこでの意見を整理し、プログラムに反映していきたいと考えています。

(部会長)

今の説明は基本目標2-2の公共交通政策についての説明です。駅前の賑わいをできるだけ取り戻すため、様々な整備事業が進んでいるとのこと。こちらについて、何かご意見ご質問ありますか。

(委員)

高砂駅と荒井駅の立体交差についてお尋ねします。地元、住民の声を聞いていることはよくわかりました。事業主体としては、山陽電鉄と県になるのでしょうか。

また、新聞で県の都市計画審議会が事業認可になった等の記事があったように思いますが、大枠やスケジュール感、その中での進捗について具体的に教えていただきたいと思います。

(都市創造部長)

連続立体交差事業については、県事業です。県事業の財源としては、国の補助金、県費や市費、そして一部山陽電鉄の費用負担があります。各駅周辺整備については、まちづくり協議会を通じて様々な計画を立て、実施していくところですが、その高砂市のまちづくりの部分においては、高砂市が主体としてやっていきます。

また、県の都市計画審議会において、議論があったことは、高架事業そのもの、高砂市の駅周辺のまちづくりに、非常に重要なことであると思います。

(委員)

この事業については、県等が動かないと進まない事業ですが、その点についてどのような状況にあるのか教えていただきたいです。

(都市創造部長)

県が事業主体ですが、事業を始めるまでに費用対効果等を示し、その事業に着手するかを判断する事業評価において、県として、着手する判断があったものです。

多額の費用を要するため、国の補助金の見込みがなければ、前に進みません。その中で、着工前準備調査を国費も入って進めていることから、現在、国とも連携をとり、進めているところです。

(部会長)

具体的なスケジュールは発表されていないのでしょうか。

(都市創造部長)

着工前準備調査については、約3年間を予定しています。高架事業となると、現状のセンターの幅員よりも広くなるため、事業実施には土地の購入が必要であり、その手続きとして、都

市計画決定をするには7、8年はかかってしまうと思います。また、事業着手にあたっては、事業決定し、事業費に国費を充てる判断があったうえで始まるため、最終的に完成するまでは10年から15年はかかると考えています。

(部会長)

その他、駅の整備計画含め、交通政策にかかわることで何かご意見ご質問ありますか。

(委員)

JR 曾根駅の東側整備を2、3年前にさせていただき、非常によくなっていますが、駅前そのものの北側、南側の道路が狭く、東側県道も広くなる予定ですが、一部市道が狭いです。ロータリー辺りは綺麗にさせていただき、ありがたく思っていますが、駅の南北についても協議会を開いて進めていただきたいと思います。

南北の通路を作ることについては JR も費用負担があるのでしょうか。あるいは、市だけの負担になるのでしょうか。

(都市創造部長)

JR 曾根駅の北側は、数年前に駅前広場を整備したところです。今回、駅周辺整備をするにあたって、前回の総合政策審議会でも駅周辺とはどの範囲かとの意見が出たと思いますが、これは、駅ごとにその区域は変わってくると思います。JR 曾根駅北側については、駅前広場にアクセスする道路についても含むところで計画していきたいと考えています。これは、以前意見交換会の中でも地元の方から要望があり、駅周辺に含むものとして判断しています。

自由通路の費用負担については、基本的に自由通路は道路部分となり、それがJRの線路上を跨ぐという解釈のため、市負担となっています。ただ、その財源としての補助金や交付金については、全体の計画を国に認めてもらったうえで特定財源としていただき、施工する予定にしています。

(委員)

山陽電鉄高砂駅の高架の件ですが、高砂駅南のまちづくり協議会を発足し、その時に15から20年かかるとのことでした。そこからそれ以上に時間がかかっているみたいなので、1年に1度で結構ですので定期的に市民(特に高砂、荒井地域)に時点でどこまで進んでいるかの説明をいただきたいです。地権の関係で大変だと思いますが、他の方が全然わからないため、お願いします。

(都市創造部長)

高砂駅南のまちづくり協議会については、基本計画を策定するまで、かなり皆さんの議論をいただき、まとめてきたところです。その基本計画はできていますが、駅前再開発について、地権者のご理解、ご協力がなければ、なかなか事業が進みにくいため、鋭意説明会を開催し、まちづくり協議会の中に地権者部会を作りたいと進めているところです。

この関係で、当初の説明より1年進捗が遅れていますが、まちづくり協議会の方々については、年1回だけでなく、進捗があれば、都度説明をさせていただきたいと考えています。

(部会長)

説明会が開催できなければ、資料を配布する等の対応が必要かもしれません。10年から15, 6年と時間がかかるため、地域の人には実施すると言いながらも何をしているかわからないという状況があるのではないのでしょうか。その点、何か工夫をしていただければと思います。

(委員)

10から15年となると忘れてしまうため、是非とも、定期的な報告をお願いします。

また、まちづくりとなれば、駅前で家も建っているところのため、立ち退き買収等結構お金がかかると思いますが、その点は大丈夫なのでしょう。大きな計画のため、10年先になって、部長も退職され担当が代わったりした場合に、大丈夫なのかと市民としては心配なところがあります。

(都市創造部長)

駅前整備が長期間にわたることと、費用的にも莫大なお金をかけてやっと思えるものです。その点に市民の皆さんも不安であると思います。市としては、今年の3月に整備基金を創設したところ、計画的に積み立て、将来の事業に向け安定的な執行をしていきたいと思っています。基金の状況等、計画的なものについては、その都度、議会を通じての説明等、対外的に見える化し、市民の方のご理解をいただきたいと考えています。

(部会長)

色々な対外的見える化とのお言葉がありましたが、時間がかかる事業であり、市民の関心が高い事業でもありますので、今後、ますます対外的見える化が非常に重要であると思いますので、その点よろしくお願いします。

続いて、基本目標2の公共交通政策以外の政策について審議したいと思っています。人口減少に歯止めをかける観点から、重点的に取り組むことは何かを審議し、回答していただきたいと思っています。

(経営企画室長)

総合計画の中で、重点評価指標7つ設定しており、一つ目の総人口は、住民基本台帳ではなく、国勢調査に基づく人口推計として毎年兵庫県で発表されている数値です。令和4年10月で86,185人と、人口減少に歯止めがかかっていません。

二つ目の重点評価指標としては、1000人あたりに生まれる赤ちゃんの数としていますが、年々減少しています。これは、赤ちゃんを産む年齢の女性が減っており、女性一人あたりに生まれてくる赤ちゃんも減っています。

三つ目の転出超過者数は、減少しているものの、ゼロにならない限りは転出超過の状態であり、社会減、自然減共に人口減少が進んでいる状況です。

四つ目の市内事業所の従業員者数ですが、高砂市に住む場合に、仕事が必要であろうとの視点から重点評価指標として設定しています。この値は前回調査と比較し、3000人ほど減少しています。

五つ目の高砂市が住みよいまちと思う人の割合は市民満足度調査の値で、昨年報告させていただいた部分です。

六つ目の SDGs の取組を実践している人の割合は、昨年から始まった部分です。

七つ目の公共施設の延床面積の縮減率について、人口が減っている中、かつて人口が10万人近くあった時に作った公共施設を、財源を考えて減らしていきたいと考え、重点評価指標として設定しています。ここで、一見達成しているような数値となっていますが、これは、まだクリーンセンターの面積が含まれておらず、これを含むと5%程度の縮減率となる見込みです。

このような重点評価指標が出ている現状と、各政策の KPI を見ていただき、どこに課題があるか、どこに重点を置けば、高砂市の人口減少対策となるか、ご意見を賜りたいと思います。

(委員)

1000人あたりの出生数は出ていますが、合計特殊出生率は出ていないのでしょうか。

(経営企画室長)

合計特殊出生率については、高砂市の場合、兵庫県にて5年に1回算出されます。前回平成27年の国勢調査の時よりも令和2年の合計特殊出生率の値は低下しています。

(委員)

五つ目に住みよいまちとありますが、人口減少を止めるのであれば、住みたいまちであるべきだと思います。その住みたいまちに関する政策はどのようなのでしょうか。

そして、七つ目の公共施設の延床面積の縮減率については先述の観点から減らす方がよいのでしょうか。量的には減らした方がいいとしても、質的な意味で、住みたいまちにするためには、子育て等で若い人や小学生までの子どもたちが住みたい、住みやすいと思う公共施設を増やすべきだと思います。

また、テレビにて先進国でフランスが人口増加しているとの情報がありました。分析も様々であり、一概には言えませんが、保育園や幼稚園などの施設のように、子どもや子育てにお金をかけている、これに尽きると思います。

高砂市も住みたいと思うまちのために、漠然とした分析だけでなく、変える必要があると思います。変えるためにどのようなことをしてきたのか、しようとしているのか、それが重要です。飛躍的に変えなければズルズルとこのままいくのではないかという気がしますので、誰がこのあたりの判断をするのかはわかりませんが、是非判断していただきたいと思います。

(経営企画室長)

先ほどの合計特殊出生率ですが、高砂市は平成27年に 1.52、令和2年に 1.42 です。値として低下しています。全国平均は令和2年で 1.33 です。

住みたいまち、住みやすいまちを目指すために、高砂市も市民の皆さんと、事業者の皆さんと連携して取り組みたいと考えています。その中で、政策評価表として上半期の取組のレビューをしています。この政策はこうすればよいのではないかなというようなご意見をいただければ、我々も総合政策審議会でご意見をいただいた点に注力、見直しをしながら取り組むこと

ができると思いますので、よろしくお願いいたします。

(部会長)

住みたいまちのために様々な政策をやっていますが、その政策の一つとして、まちづくり政策でまちづくり団体の認定数等が KPI で取り上げられており、事業としては明姫幹線の南側の污水管理整備等が挙がっています。これらについて、何かご意見はありますか。

例えば、空き家バンク登録物件の売買賃貸成立件数は年々増えています。1件、4件、8件と増えている中、あとどれほど解決する必要があるかを教えていただきたいと思いますが、いかがですか。

(都市創造部長)

空き家対策について、なかなか市場に出ない民家を市の空き家バンクに登録することで、物件自体を活用していただく制度です。令和元年度は1件と利活用がなかなかされませんでした。令和3年度は8件、今年度も現時点で4件の成約がありますので、昨年と同じくらいの件数にはなるのかなと思います。

物件でも耐震性のある家とない家があり、耐震性がない家は改修しようとするとかかなり費用がかかってしまいます。現在は、昭和57年以降に建った耐震性のある空き家も出てきています。空き家バンクを利用した売買と空き家の活用支援も行っており、それについても今後増えると考えています。

(委員)

私が住む村も古い集落ですが、今年は2件の空き家が埋まりました。しかし、その2件とも高砂市内からの高齢者の移住です。自然の多いところでゆっくりしたいとのことでした。ここで示されている KPI の8件が、市街から若い人が来たものであればよいと思いますが、そうでない場合は効果としてはどうかと思います。そのため、空き家については市外又は県外から魅力ある高砂市に住みたいと移住してくれる人の件数がどれほどあったかが大切ではないかと思います。

(部会長)

空き家問題を取り上げる原因として、市街地に空き家が出ており、その問題をどのように解決するかという点では、指標を少し見直す必要があるかもしれません。先ほど説明があった古い空き家で耐震構造に問題がある家に対して、その改修費等の補助金の申請数など、本来解決すべき空き家問題の指標としてどうかについて、再検討いただければと思います。

(委員)

2-1の良好な住環境について、私が気にしていることとしては、大学進学にあたって若者が市外に出てしまい、そのままリターンとして戻ってこないことが多いのではないかという点です。例として、高砂市内には大学がないため、進学となれば、自宅から通う人以外は、一人暮らしで出て行ってしまい、そこで就職し、戻ってこないことが多々あるかと思っています。

そのような問題を解決するためには、高砂市が魅力あるまちであること、雇用の受け皿が

あること、空き家対策にも繋がる住まい、住環境が整っていることが関係すると思います。

空き家バンクについては、若者がリノベーションをし、古い家で安く住むようなニュースも見聞きますので、そのように活用できるのではないかと思います。

雇用の受け皿についても、資料の別のところで出ていたと思いますので、関連した対策をしていく必要があるのではないかと思います。

また、まちづくり団体の認定数で2団体挙げられていますが、こちらの団体を教えていただけますか。

(都市創造部長)

まちづくり団体については、明姫幹線南に市街化調整区域があり、そこを三つに分けた一番東側の「明姫幹線南地区のA地区」及び、阿弥陀の以前浸水した箇所についてまちづくりを考える「阿弥陀山ノ端地区」です。

また、記載はしていませんが、令和4年度にもう1団体、空き家対策や狹隘道路、人口流出を考える北浜町北脇の団体を認定として追加しているところです。

(生活環境部長)

雇用の受け皿、就職に関してお答えいたします。産業等の部門は2-3にあたりますが、個々の指標では、就職に関するものがないため、口頭でご説明します。

就職関連について、本市にはハローワークがありませんが、労基署と協定を組み、数年前から高砂市内で高砂市内の中小企業の方が就職説明会・面接会を開くことができるようにしています。昨今、中小企業での人手不足が深刻となっており、市内の雇用を推進するためにも、取り組んでいます。年齢層に関係なく、再雇用を望む方も参加いただき、就職に至った件数も増加しています。これについては、さらなる充実に向け、継続していきたいと思います。

また、今は中小企業に就職する大学生の方の多くが、奨学金を利用されています。そこで、登録いただいた中小企業に奨学金を利用した方が入社した場合に、その事業者に対し、奨学金の返還支援に関する制度を令和4年度から始めています。

以上のような、事業者側、就職希望者側それぞれに対する支援を、様々な先進事例も踏まえながら有効な策を進めていきたいと思います。

(部会長)

2-3に議論が移っていますが、施策の方向性としては、高砂市の資源や技術革新を活かした特色ある産業を作る、サービス業の充実で暮らしやすい生活を送る、持続可能な社会に資する自主的で豊かな消費生活を送るとなっています。

本件について何かご意見はありますか。

(委員)

学生が外に出てしまうとのお話がありましたが、住みよいまちと住みたいまちは意味が違うと思います。

先ほどの学生の奨学金を支援する件について、数年前に新聞か広報で見た記憶がありますが、それを見た人だけが知っている状況になってしまっています。高砂市に来ると、そのよう

な支援があるということを、もう少し PR するべきだと思います。学生に向けての説明会等で、ここで就職すると、このような福利厚生が整っているという細かな情報が多分学生が知りたいと思うため、PR の方法をもっと考えるべきだと思います。

(部会長)

奨学金の支援に関する PR は現在どのようにされていますか。

(生活環境部長)

先ほどご紹介した市内の中小企業に就職された方が奨学金を返していくにあたって、その事業者に対して補助をする件については、市単独で行うのは少し難しく、兵庫県とタイアップしたかたちで制度を運用しています。対象は、県に登録した市内の中小企業(現在5、6社)に就職した場合であり、今の制度は少し限定的です。ただ、県と共に事業を行っているため、県でも学生への周知をさせていただいており、本市も、中小企業のホームページでのお知らせや就職相談会等にて制度の周知をさせていただいています。県と協力し、大学にも周知をしてもらう等、今後も考えていきたいと思っています。

(部会長)

本枠組みに入っていただく中小企業を増やす必要があることと、実際に来てくれる若者を増やす必要があることの二通りの PR が必要になってくるとは思いますが、今後ご検討いただければと思います。

その他ご意見等ありますか。

(委員)

同様のお話になってしまうが、高砂市は PR が少し下手であると思っており、明石市長ほどとは言いませんが、全国的に高砂市の名前が知られるような企画、例えば Youtuber を育成するのもありだと思います。

以前にもお話しましたが、他市では小学1年生から地元愛を育む教育も行っており、教育委員会等とも連携してもらえればよいかなとも思います。

Youtube が手っ取り早いと思いますが、そのように若い世代に繋がるような PR をもっとすべきだと思います。様々な政策をしているにも関わらず、それが伝わっていないのがすごくもったいないと思います。

(委員)

高砂市は1か月に1度、広報たかさごを発行していますが、あれはとても地味です。明石市の広報を見てみると、これであれば読んでみようと思うような広報です。高砂市の広報がとても地味だという人もいるため、その点も考えていただければと思います。誰もが読みやすいようなものをお願いします。

(委員)

先日高砂の万灯祭がありましたが、高砂市の子でも案外高砂のことを知らず、高砂市でこん

なにジャズをやっていることを知りませんでした。もっとアピールをするべきだと思います。
一時期コスプレが流行りましたが、高砂市として次にジャズを推してはどうかと思います。

(委員)

私が知っているお店で、定期的にジャズをしているところがあります。お店がアピールすべきところではありますが、市としても少しアピールがあればと思います。

(部会長)

今の議論としては、商業活性化の基本計画の推進の点で、新たな個性の創出の可能性に繋がるかと思うので、この点について市役所の方から何かご意見等ありますか。

(政策部長)

万灯祭について、イベントの一つとして灯りの中の音楽を楽しんでいただこうと、セッティングしているところです。

なかなか通常時にジャズの PR ができていないところは感じているところですので、今後、実際にお店の方も含めてどのような PR ができるのかを検討することも一つの手かと考えています。

以前から、高砂市の PR が下手であるご指摘も感じているところですので、広報たかさごも含め、少し違う視点も入れながらやっていきたいと思っています。

(部会長)

農水省の方でも公務員 Youtuber の養成をしていますので、もしかすると、高砂市役所職員 Youtuber も良いかもしれません。

全体の活性化に向けて、PR 戦略が市外に情報を出そうとしすぎて、市内の市民に向けての情報発信にももう少し工夫が必要なのではないかと思います。たくさんの仕事をしているにもかかわらず、知ってもらえていない点は、市役所の職員としても歯がゆい部分ではないかと思いますので、自分たちの仕事を PR することも含めて、もっと市役所から市民に対してのアピールが必要なのではないか、というのが一つのアイデアとしてあると思います。

2-4の環境にやさしい暮らし、まちづくり、環境政策について何か意見はありますか。

(委員)

今年度中間評価の最後のところで、市と事業者で構成するゼロカーボン推進協議会を設置したことは、良い取り組みだと思います。高砂市の臨海部には大きな企業が多く、そこでは二酸化炭素排出量も多いのではないかと推察します。

一方で、そこからは多くの固定資産税等もいただいている事情があろうかと思いますが、市としても物申す必要もあるのではないかと思います。

昔、公害が大きな問題となりましたが、その際には、市が条例化等により環境問題や公害対策にかなり力を発揮されました。

このゼロカーボンに対しては、事業者とどのように進めていくのか、基本的なスタンス等をお聞きしたいと思います。

(生活環境部長)

ゼロカーボン推進協議会と工業都市である本市のCO₂排出量の件についてお答えします。

まず、高砂市の特徴として、臨海部に非常に多くの事業者に来ていただいているが、市内のCO₂排出量の約8割以上が事業者、産業部門で排出しているというデータがあります。これは、県内でも尼崎市よりも少し高く、大きな特徴であり、課題でもあります。

その状況から、昨年度、市長が手を挙げ、ゼロカーボンを目指す、と宣言をさせていたところ、市民、行政ですべきことも多くありますが、事業者との取組が一番重要であるため、事業者との協議会であるゼロカーボン推進協議会を今年度設置しました。

臨海部の事業者と、公害の問題があったころから市条例により環境保全協定(当時は公害防止協定)を組んでおり、事業者と主にゼロカーボンを目指すため、協議会を作りました。

その中で、市と事業者だけでは進めにくい点もあるため、今年度から環境省からもオブザーバーとして来ていただいています。そして、事業者も大きい企業であるため、自社で目標計画を立てられており、その点もヒアリングしながら、課題や市としてできることについても、協議を進めているところです。

(委員)

是非進めていただきたいと思います。現在協議をしているとのことですので、その過程や具体的な目標等を定期的に広報たかさご等で報告や宣伝等をお願いします。

市民がゼロカーボンに向けて一緒に取り組む啓発にもなると思うので、是非定期的な報告をお願いします。

(生活環境部長)

現在協議を進めている中、事業者がやること、行政がやること、市民にやっていただきたいこと等まとめる地球温暖化対策実行計画を現在策定中です。

2050年にカーボンニュートラルを目指すものですが、まだ先であるため、2013年と比較し、2030年に46%の削減を国が目標として掲げています。県が48%を目標とし、市町村はそれ以上の目標値を求められています。

計画には、計算を行ったうえで、どのような取組が必要なのかも計画には盛り込みます。そのため、計画ができた際には、もちろん市民の方にもお知らせし、それぞれにやっていただきたいことを示したうえで、この進捗として、毎年どれだけのCO₂が削減で来ているか、実数を結果としてお示ししていきます。

(委員)

ゼロカーボンについては、沿岸部の大企業はある程度自社で取組もあり、一定の資金力もあるため、進んでいくものと認識しています。一方で、高砂市に拠点を置く、周辺の中小企業については、意識はあるものの、目標がまだ先であることや資金的な問題で早急には進まないと思います。

そこで、高砂市として、設備投資や電気自動車への移行等へのサポート等について、具体的に計画していることはありますか。

(生活環境部長)

自社で目標、計画を立てている大企業は多いが、そこに属する中小企業においてもこれを進めなければ、目標の達成が困難になります。

高砂市では、再生可能エネルギーとしては太陽光エネルギーが大きいところですが、中小企業としては資金の捻出が難しいところになるため、国の補助の活用や、その対象外となる場合の対応等も計画にまとめます。計画だけでなく、実行する必要があるため、そのような中小企業への支援も、市ができることという点で、補助金制度の検討も進めています。

先んじて、今年度途中の補正予算にて、市民だけでなく、事業者が購入する電気自動車への補助を行っています。今後は、そのようなかたちで、事業者の地球温暖化への取組にも支援していきたいと考えています。

(委員)

電気自動車の支援についてですが、それは購入に対する支援でしょうか。

(生活環境部長)

新車の購入に対する支援です。中古車やリース契約は対象外です。

(委員)

自動車メーカーも今後ガソリン車を廃止して、電気自動車への移行が進むと思いますが、一つの懸念として、ガソリンスタンドがどんどん廃業していくのではないかと思います。

その中で、電気自動車が普及するのであれば、電気自動車の充電設備をガソリンスタンドに配置することで事業転換を図れないかと思っていまして、それに対する支援も是非やっていただきたいと思います。

高砂市内には現在電気自動車の充電設備があまり充実しているとは言えないかなと思います。その面でも環境が整えば、市民の方々も電気自動車を購入するという選択肢も出てくるでしょうし、それを先進的に行えば対外的にもアピールになるかと思います。

(生活環境部長)

市として民間の方が設置する充電設備に対し支援する事業は現在ありません。ただし、今後そのような検討も必要かと思っております。

来月、高砂市役所の駐車場の完成を予定していますが、その駐車場の一角に、電気自動車用の急速充電器を一基設置します。それを皮切りに、電気自動車の普及について推進していきたいと考えています。

(委員)

もう一点、違う話になりますが、2-4の前年度審議会評価及び意見における、緑化推進で高砂モデルを考えればどうかという点について、高砂青年会議所では、今年度、公園の緑化・芝生化事業を行い、梅井西公園で芝生を敷く事業を市民の方々と共同で行いました。

子どもたちにも参加してもらいましたが、どれも初めての体験で、非常に盛り上がりました。今後、養生中の芝生ができれば、子どもの遊び場や、市民の集いの場にも繋がってくるかと思

います。

青年会議所としても、これを他でさらに進めたいと思っており、県の県民まちなみ緑化事業の補助金を活用させていただいていますが、様々な団体の方々とも共同してやっていきたいと思っていますので、高砂市にも是非ご協力いただければと思っています。

(都市創造部長)

県民まちなみ緑化事業について、兵庫県にて事業を募集し、対象の事業に対して補助金を出していただいています。その中で、公園の芝生化に各団体で取り組んでいただいています。

芝生化という目に見える事業であると共に、地域の皆さんと取り組んでいただくことで、公園の賑わいが生まれ、コミュニティの一助となっている点で、非常にありがたく思っています。

市としても、公園の長寿命化計画等でそれぞれの地域の魅力に合った公園づくりを進めているところです。公園づくりについて、それらの事業をサポートも含め、様々な政策を講じていきたいと思っています。

(部会長)

先ほどありましたように、ゼロカーボン推進協議会の策定結果を待たずして、市内広報はしてもよいのではないかと考えます。大企業や利害関係者に対しても市の立ち位置をしっかりと示すことができる場所であると思いますし、様々な人の努力を結集できる一つとして、市内のとても立派なたくさんの取組も含めて、市民への広報活動について考えていただければと思います。

続いて、基本目標4の一つ目、職員育成政策について委員の皆さんから何か意見はありますか。

(委員)

先日、市長との対話の際にも言いましたが、私は職員の皆さんは優秀な方で、能力も十分にあると思います。市役所庁舎も新しくなり、事務環境も整って、一生懸命事務をされていると思います。

しかし、市の職員の方はパソコンに向かって一生懸命に事務をするのが本務なのでしょうか。なぜパソコンを使って事務をするかという点、市民のためにやられているものだと思います。一生懸命パソコンに向かって仕事をしているところ、市民に話しかけられて邪魔だなと感じると、それは本末転倒であると思います。

やはり、市役所の方は市民に向かっての対応が一番であって、その市民のためにパソコンに向かって事務仕事をしているという点を押さえていただきたいです。時々、それを履き違えた方がいらっしゃるように感じます。

(総務部長)

接遇については、当市も全庁的に改善を言い続けています。新しい庁舎になり、旧庁舎と比べ、広々とした関係で、窓口に出るタイミングや市民の方への気づきという点で改善点があることは私どもも感じています。

市民の方に向き合う、心持ちが重要、明るく笑顔で市民の方を迎えるような接遇が重要だと

思いますので、ご指摘を踏まえて、市としても向上に努めていきたいと思っています。

(部会長)

次の、使いたくなる公共施設が気持ちよく利用できる公共施設政策にも関わると思います。序盤にありました公共施設を減らしていくお話で、最適化計画の推進についてかと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

公共施設を減らす際の説明時に、初めに出てくるのが、この施設は 5、60 年前に建設され、老朽化が進んでおり、全面修復には何億必要です、そのため廃止しますとのこと。

説明としては、なぜその施設を作ったかが始めに出てくるべきだと思います。当時、目的があって建てたはずなので、それを廃止するということは、その当初の目的をやめることになります。当初の目的のために維持してきましたが、財政がどのようになっており、廃止となる代替案として目的達成のためにどんなことをします、のような話がありませんでした。

もう一点、指定管理として市職員ではなくほとんどが委託業者になっています。最適の利用や、市職員ではない点で、そのあり方や指導についても考える必要があるかと思っています。

(政策部長)

例として、市民プールの廃止については、市長との意見交換会も実施しており、そこでの話も聞いています。そこでも、施設を減らすことについて一定理解できるところもあるが、並行して、市の将来的な魅力という点も話してほしいとのご意見を聞いています。その点についても、今後併せて説明していきたいと考えています。

各施設の指定管理として委託業者にお願いしているところがあります。その指定管理の事業実施の内容については、市でも確認しながら進めています。特に問題等があれば、市に連絡があり、適宜協議をしながら対応しています。

(委員)

施設の利用数については、コロナウイルスの影響が大きいと思うので、近年のデータは使えないと思います。外出や集まりを控えたことで、利用率が下がり、その利用率だけを見て施設の廃止を決定することは危険です。そのため、今は、利用率では測ることができないと思います。

(政策部長)

ここ2、3年は、特に利用率について、コロナウイルスの影響を大きく受けているものと考えていますので、その点も考慮して進めていきたいと考えています。

(部会長)

市民プールの話が出ましたが、市民プールも建設時には何か初期の目的があり、その目的が達成される、又は、目的となったものが別の形で実施できるのであれば、廃止してよいものと考えられます。

市民プールができた理由はわかりませんが、おそらく、昭和3、40年代のことを考えると、学校にプールがなかったため、学校教育との関連で市民が利用するプールとしてできたとの理由が一番わかりやすいかと思います。そして、それぞれの学校にプールが一つずつ設置されると、市民プールの子どもの利用率が下がり、別の代替手段がとられたと考えられます。

すなわち、初期の目的の達成度や代替についての議論をしていただければと思います。

人数や予算が限られ、稼働率の問題がある中、初期の目的に対してどうであったか、初期の目的に対する代替手段はどうなっているか、又は、初期の目的をさらに進めて新しい目的を定めて積極的にいくのか、など、目的との関わりでの評価を少し考えていただきたいと思います。

(委員)

利用者が少なくなったから市民プールが廃止になるのでしょうか。

(政策部長)

市民プールに関しては、ここ2、3年の稼働率が少ないため廃止するものではありません。

(委員)

市民プールは山陽電鉄の駅からアクセスしやすく、車で来ても駐車料が無料で、利用料も安く、市外から来る人も多かったです。そのため、なくなってしまうことに寂しさを感じます。

(委員)

県内に市民プールはほとんどありません。高砂市と加古川市の浜ノ宮のプールくらいではないでしょうか。だからこそ、あえて残してはどうかと思います。

(部会長)

そこは元々の目的とは変わってくるかと思います。単にやめるだけでは、市民も納得できないと思いますので、目的に関連して、もっと先に進めるのかという点も考えていただきたいと思います。

4-3情報政策についてはいかがでしょうか。これは、年齢・世代による問題、格差が大きいと思いますので、苦手な年代であっても利用できるようなものを考えていただければと思います。

先ほどの市民サービスとの関わりの中でも、スマートフォンから施設の予約や料金支払いを済ませる等、市のサービスのDXについても進んでいくところだと思います。そのため、市民が利用できるような勉強会、あるいは、若者が高齢者に使い方を教えるサービスなど、推進するうえで高砂らしい、結びのまちらしい、新しい結びを作っていただければと思います。

最後、4-4行財政運営政策について意見はありますか。企業版ふるさと納税やSDGsの普及促進等についてです。

(委員)

高砂市はふるなびへの登録をしていますか。

(部会長)

ふるさと納税について、どこと連携しているのでしょうか。

(政策部長)

高砂市は楽天とも契約しており、楽天が大きい割合を占めてきています。返礼品については、地元の産物であるチーズケーキやコーヒーなどがあります。

(委員)

寄付は多いですか。

(政策部長)

徐々に増えています。多いのは大手企業である飲料会社の品です。もちろんそれ以外にも品は多くあるため、気に入っていただき、それを返礼品として選んでいただいています。

(委員)

要望として、このように会議をすると、私たちは、あれもこれもと総合的になってしまいます。そのため、市の方で優先順位をつけていただき、予算を平等でなく、重要なところに多く出していただきたいと思います。

総合的にやってしまうと、これはやっています、これもやっていますと言いながらも、それぞれの予算が少なければ、効果的にできないと思います。

治水対策も多くのお金がかかったと思いますが、それも終わったかと思うので、将来を見据えて重点的な予算の配分をお願いしたいと思います。

(政策部長)

総合計画を大きく四つの章に分け、その中で、二つの章について部会で議論いただくのも範囲が広く申し訳ないところです。

総合計画については、全体的な市の政策を書いているため、特化する部分にまでは至っていません。

今の市の政策として、できるだけバランスよくという部分もありますが、単純な事業数では子育てに関する基本目標1の事業数が一番多いです。事業が多いということは、そこに一定の財源を投入している面もあるため、その点も踏まえて、今後進めていきたいと考えています。

(委員)

財政的な質問をしたいと思います。高砂市は昔、臨海部に多くの企業が立地し、非常に豊かな市だと聞いていました。しかし、最近はそうでもないというお話ですが、臨海部の企業がなくなったわけではないため、財政面でどのような変化があったかを教えていただけますか。

(政策部参事)

お話があったとおり、かつての高砂市は、大手の法人からの税収がたくさんある中で、当時

そこで将来的な基金を積まずに、その時の市民サービス、ソフト、ハードにお金を費やしてきました。特に、高砂市には多くの建物があり、先ほどの公共施設総合管理計画の最適化で集約が必要だということに繋がりますが、税収が減ってきていることも事実です。

しかし、市民サービスを一度始めると、なかなかやめることができませんでした。それが平成24年あたりの大きな行政改革の中で、人件費をカットしてまで維持し、財調、いわゆる貯金が1億円ほどになる状況になってしまいました。

将来的に向けて貯金をするなり、行政改革的なことでも様々な整理をすればよかったのだと思いますが、その中でも、高砂市民は当初にそれだけのサービスを受けて、それが当たり前になってしまっている部分もあります。

そのような状況で、非常に財政的に厳しい中でも、先ほどお話がありました、治水対策や新庁舎建設、給食センター整備事業等をやっていますが、何とかある一定の貯金が貯まっています。

前半で、連続立体交差事業を含めた今後の大きな事業が本当に大丈夫かとのお話もありましたが、今は、10年、15年以上先であろうとも、超長期の収支を財務部でも見据え、政策部に出てきた事業計画を含め、大きな事業をやっていけるかの判断をしながら、事業を進めています。

総合的とのお話もありましたが、今後は市としても、メリハリをつけた柱事業も計画していますので、それを中心に、財源も見ながら、進めていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

(委員)

なぜ大手企業からの税収が減っているのでしょうか。

(政策部参事)

市ではわかりかねますが、減ったことは事実です。

(部会長)

基本的には、今日議論があった点について、しっかりと採り上げていただきたいと思います。特に、シティプロモーションについて、様々な部署がやっている非常に多くの活動が、市民の方に伝わっていないことが、重要な点だと思いますので、そのことについて考えていただくというところが、最も重点的なご意見だったかと思います。

施設の削減については、今説明があったとおり、たくさん作ったものを減らす必要がある部分もあるかとは思いますが、初期の目的含めて判断し、必要であれば、市民サービスを他で提供する代替的な手段についても考えていただければと思います。

協議事項 2 その他

(部会長)

事務局から何かありますか。

(事務局)

次回の審議会は1月に全体会を予定しています。今年度最終の審議会のため、各委員の皆さんからどの政策についてでも結構ですので、2、3分ほどご意見をいただければと考えています。よろしくお願いいたします。

(部会長)

これで予定していた議題は以上です。本日はありがとうございました。